

みかい

安住院便り
(第37号)

平成28年8月1日発行

〒703-8236

岡山市中区国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

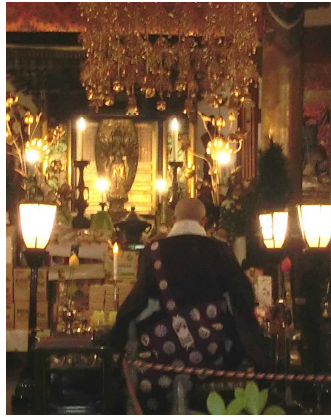
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

権大僧正

皆さん、お坊さんが、法事の時やお寺での行事などの法会の場所では、紫色などの衣を着て、お勤めをしているのは、ご存知のことだと思います。

正式な僧侶の衣には、黒色や紫色、赤色（実際には緋（ひ）色）といつてオレンジ色に近いものなど、決められた色があり、それは僧侶の僧階といつて、資格に基づいています。

仏教が日本に入ってきた奈良時代や平安時代では、僧侶をまとめる役所のよう組織があり、役職に応じて階級も決められていました。その後、真言宗を始め様々な宗派に分かれてきたり、階級も細くなってきましたが、一番上は大僧正で、次が権大僧正になっています。



権（ごん）というのは、仮にという意味で、大僧正になる前ということになります。

本山などでの管長や法主、座主・門跡といった名前は、本山の住職を敬ってお呼びするときの名称で、僧階というと大僧正です。

そして、正式には権大僧正と大僧正は、緋色の衣や袈裟を着けることが許されるのですが、それは、現在は所属している本山の承認が必要で、地方寺院の住職であれば、本山への貢献や檀信徒の教化・境内整備などにより、功績が認められた場合に決まります。

安住院は現在、真言宗善通寺派に所属していて、本山は香川県善通寺市にある善通寺であることは、理解して頂いているものと思います。そして、当院現住職が今年三月に、権大僧正になることが出来ました。本山への貢献は元より、檀信徒の皆様の多くのご尽力により、瓶井山安住院を護持してきた結果だと信じ、皆様には心より御礼を申し上げるとともに、これからもご協力の程、宜しくお願い致します。

今後、法会等で、緋色の衣を着ている姿をご覧になった時には、このような意味があったのだと納得して頂ければ幸いです。衣の色が変わったからといって、安住院の住職として仕事が変わるわけではありません。副住職と二人で元気で仲良く、安住院を護持していくとの願いは、常に持ち続けます。重ねて宜しくお願い申し上げます。

合掌

(生駒 善勝) (その⑦)

《高野山奥の院・燈籠堂》

「消えずの火」 第二回

ある日、お照は、槇尾山の観音様参りの帰り道で、今は亡き養父母を思い、生き別れた両親を偲び、休んでいました。そこで、旅人の話として、高野山の弘法大師さまへ燈籠を献上することを知りしました。「亡くなった人への追善供養に燈籠をするのは特別なことで、ある長者は、来年に一万基を献燈するそうだ。」「我々もせめて一燈でも奉納出来れば良い供養になる。」お照も是非、高野山へ献燈をしたいとの思いが募りました。お照は、一晩中考えた末に、

亡き養父母の墓前で、黒髪をバツサリと切り、位牌と共に、堺の町に旅立ちました。

紅屋吉兵衛は、お照の身の上話を聞くや否や、その真心に打たれ、髪代金と高野山への旅費も渡し見送りました。三日の後、高野山麓の神谷の宿に辿り着きましたが、そこで、「高野山は女人禁制のため、山内は立入禁止」の掟（おきて）を知り、お照は泣き崩れてしまいました。

宿の主人の花屋市兵衛が、お照から詳しい話を聞いてみると、突然「失礼いたす、主人、開けるぞ」と、黒染の法衣を着た、眉の濃い、がっしりとしたお坊さんが入ってきました。(・・・次号に続く)



国道沿いの看板

(看板が新しくなりました。)

摂津観音霊場参拝③

今年四月十八日、摂津観音霊場の第三回目の参拝を行いました。今回は、宝塚から池田・箕面方面の六ヶ寺でした。現在では大阪府と兵庫県の境になっていますが、昔は摂津の国としての地で、今は阪神地区と呼ばれていますので、行政的には分かれても経済的には一体なのだと感じました。

宝塚の中山寺は真言宗大本山ですので立派な佇まいで、何時訪れても圧倒される雰囲気でした。箕面公園の中に、お寺があったのだと驚きましたが、その他の寺院も境内整備が進み、温かく受け入れて頂き、ゆつくりとした団参でした。花の季節や紅葉の時期には、ひよっとすると近づけないのではと少し心配しましたが、その時期にもまた訪れたいものです。

次の予定は、十月十二日(水)の第四回目ですので、是非ご参加下さい。

